

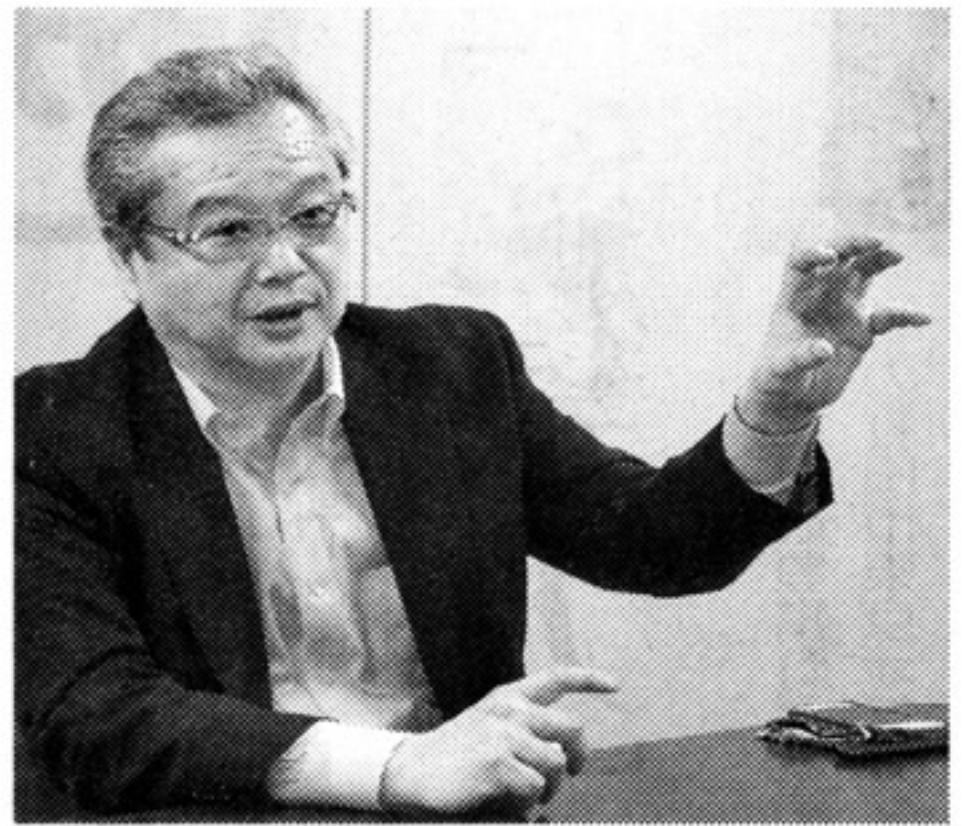
——「恋人の聖地」を全国で展開されている。

「デザイナーの桂由美さんらと少子化対策と地域活性化を目指してスタートした。2005年に『恋人の聖地プロジェクト』を立ち



上げ、06年に『恋人の聖地』の選定と同時に啓発事業『プロポーズの言葉コンテスト』を始めた。現在は『聖地』133カ所、企業・団体が取り組む『恋人の聖地サテライト』は77カ所（うち海外3カ所）。最初はNPOが日本の抱える大

NPO法人地域活性化支援センター理事長 **志垣 恭平氏**



しがき・きょうへい 中央大学法学部卒。静岡県庁を経て、静岡県でコンサルティング会社を経営。2006年NPO法人地域活性化支援センター設立。東京都出身、57歳。

## 「恋人の聖地観光協会」設立

「聖地を活用して地域活性化に取り組んでいる各地の成功事例を共有するため、結婚関連企業との連携で始めた。さまざまな取り組みを見える形にするため、賞への応募の形式をと、賞への応募の形式をと共有し、周遊観光のストーリーができれば、観光事業を通して地域活性化にも貢献できると考えた」

「動き出してみると、世の中に少子化対策目的の事業はほとんどなく、観光事業と連携した地域活性化の取り組みは異色のプロジェクトとして、メディアに取りあげられる機会が増えていった。すると地元の人々の意識も変わり、若い人たちも地域の取り組みに参加できる環境が生まれた」

「10月には「恋人の聖地観光協会」を立ち上げる。中には聖地を十分活用できていないところもあるので、観光協会は各地の交流と情報交換の場にしたと考えている。もう一つは、幅広い企業と連携してサポート組織作りを目指している。『恋人の聖地』を活用した事業推進プランを企画企業と作り、全国で活用し、ただくことを考えている。例えばJTBとの連携では各地の着地型観光の種と

「地域活性化、地方創生の要は観光だ。交流人口の拡大が各地の元気の源になる」と考えている。我々は一つの観光資源に別の側面から光を当てることにより新たな価値と需要を生み出し、交流人口の拡大に貢献したいと考えている」

問題を二つも掲げてと怪しいロマンチックな場所』を観光スポットとして各地に作ることができれば幅広事業展開が可能になると思った。そういう視点で見ると、全国には過去に整備された素晴らしい観光地や観光施設がたくさんありあげられる機会が増えていった。すると地元の人々の意識も変わり、若い人たちも地域の取り組みに参加できる環境が生まれた」

「桂さんとの話の中で、少子化問題の一番の課題は非婚化・未婚化だと。だが民間が独自で事業を遂行するのは困難なので、観光事業と連携して若い人々が訪れる『プロポーズにふさわ

「4月には観光交流大賞を創設した」

【遠藤真澄】